

「公益財団法人 日本城郭協会 平成27年度事業報告」

平成28年5月

- 1、「日本100名城スタンプラリー強化及び城カード・テスト版の作成」
当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」はますます評価が高く、100名城登城達成者は980人を超えた。
テレビや新聞などで100名城及びスタンプラリーが頻繁に紹介されることで、人々の城郭への関心が一層高まっている。
こうした状況をさらに発展させ、城郭文化の振興に寄与する事業として新たに「日本100名城城カード」の発行を計画したが、手続きの問題もあり、発行できなかった。ただテスト版として、徳川家康公顕彰400年記念で駿府城と浜松城の城カード各1000枚を作製した。これらは親子名城見学会で参加者にプレゼントしたが大いに喜ばれた。またそれぞれの城の管理事務所に提供し、お城訪問者に無料配布を依頼したが、好評だった。
- 2、「親子名城見学会・城の自由研究コンテストの継続・強化」
第14回の「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は児童・保護者さらに教育関係者からの評価も高く、大きな教育的成果を上げた。
「親子名城見学会」では平成の大修理が終わり、白亜の大天守が公開された「姫路城」をはじめ、「江戸城」「金沢城」など5城で開催した。当初予定していた松山城は台風のため開催できなかった。江戸城や金沢城ではミニ勉強会を行ったが、好評だった。また「城の自由研究コンテスト」は応募者増加への取り組みを強化した結果、前年より30%増の187作品の応募があった。この中から予備審査で21作品を選び、11月の最終審査の結果、文部科学大臣賞に福岡県の土橋優理（小3年）さんの「なぜ12天守はのこったか」が選ばれた。日本城郭協会賞や審査員特別賞を含めた表彰式は平成28年1月11日、私学会館（東京・市ヶ谷）で関係者100人が出席して行われた。
- 3、「日本城郭検定の充実・強化」
日本城郭検定は平成27年に2回開催した。6月の第6回検定では受験者からの要望にこたえて最上級の1級クラスを新設した。
1級には300人を超す受験者が挑戦し、18人が合格した。
- 4、「城郭講座・城郭セミナーの開催」。
平成27年は明治大学と提携して5月から7月までの間に6回にわたって

城郭講座を開催した。定員をオーバーする受講希望者があり城郭への社会的関心の広がりを認識した。

また9月には「城郭遺産による街づくり協議会」との共催で「新視点・日本の城郭研究と成果」と題するシンポジウムを駒澤大学で開催した。

各都道府県や各市の生涯学習部門から「城講座」の依頼が最近多く寄せられた。平成28年3月には足立区生涯学習センターで4回にわたって城講座を開催した。

5、「学術委員会の活動強化」

学術委員会の活動を強化した。具体的には「日本城郭検定」の1級新設にあたって問題作成を主導した。また「城郭講座・城郭セミナー」開催など積極的に対応した。

6、「ヨーロッパ100名城の調査・研究会」

「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度を高めるための調査研究の旅行企画などを検討したが、条件が整わず開催できなかった。

7、「テレビ・新聞・出版物への監修・助言の体制強化」

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応した。新聞社、テレビ局、出版社への助言は20件を超えた。

8、「会報・ホームページの一層の充実および会員へのサービス強化」

会報の増ページとホームページの改装では、会員からの評価を得た。会報では会員の寄稿欄を設けるなど一層の充実を図った。また会員へのサービス強化と会員増強のためのイベントとして「滝山城（東京都）」見学会を平成27年12月に開催した。